

## 第89回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成22年3月9日(火) 17:10~17:34

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	鳩山由紀夫	内閣総理大臣
議員	川端 達夫	科学技術政策担当大臣(代理 古川 元久 副大臣)
同	直嶋 正行	経済産業大臣
同	川端 達夫	文部科学大臣(代理 中川 正春 副大臣)
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	常勤(元政策研究大学院大学教授・副学長)
同	今榮東洋子	非常勤(名古屋大学名誉教授)
同	青木 玲子	非常勤(一橋大学経済研究所教授)
同	中鉢 良治	非常勤(ソニー株式会社取締役代表執行役副会長)
同	金澤 一郎	非常勤(日本学術会議会長)
臨時議員	岡田 克也	外務大臣(代理 武正 公一 副大臣)
同	赤松 広隆	農林水産大臣(代理 郡司 彰 副大臣)
同	仙谷 由人	国家戦略担当大臣(代理 古川 元久 副大臣)
	大串 博志	財務大臣政務官

(議事次第)

1. 開会

2. 議事

(1) 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計

画について（決定、意見具申）

（２）科学・技術重要施策アクション・プラン等の策定に向けた科学・技術政策上の当面の重要課題について（意見交換）

（３）科学技術外交タスクフォースにおける取りまとめ（報告）

### ３．配布資料

資料１ - １ 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（案）

資料１ - ２ 参考 最先端研究開発支援プログラムについて

資料１ - ３ 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（案）参考資料

資料２ - １ 科学・技術政策上の当面の重要課題（概要）

資料２ - ２ 科学・技術政策上の当面の重要課題

資料２ - ３ 「科学・技術政策上の当面の重要課題」についてのコメント

資料２ - ４ 科学・技術政策上の当面の重要課題等、平成23年度科学・技術関係予算編成に向けた検討に係る意見等

資料３ - １ 科学・技術外交戦略タスクフォース報告書（概要）

資料３ - ２ 科学・技術外交戦略タスクフォース報告書

資料４ 第88回総合科学技術会議議事録（案）

「最先端研究開発支援プログラムの中心研究者、研究課題、研究支援担当機関及び研究計画について（案）」について決定し、「科学・技術政策上の当面の重要課題」について意見交換された。

冒頭、古川副大臣発言

#### 【古川科学技術政策担当副大臣】

それでは、ただいまより総合科学技術会議を開会いたします。

今回は川端大臣が所用により御出席が遅れる見込みのため、私が代理を務めさせていただく。議事に先立ち、私から１点ご報告させて頂く。前回御議論頂いた「最先端・次世代研究開発

支援プログラム」において、独立行政法人に公募選定を行わせることについて官房長官及び仙谷大臣より御意見があり、議長と川端大臣に取り扱いを一任頂いていた。その後、関係閣僚に川端大臣や津村政務官、有識者議員から公募・選定は今回1回限りであること、第2に、独立行政法人の見直しによって日本学術振興会のあり方が見直される場合には、その結果を踏まえて実施体制も見直すことを御説明し、御理解を頂いたので、運用基本方針については原案のとおりとさせて頂いた。

議題(2)、(3)に関する各議員の発言は以下のとおり。

**【郡司農林水産副大臣】**

手短かに申し上げたい。農林水産の関係で、重要課題の中でグリーン・イノベーション等にも記載を頂いた。前回配られたアクション・プランの例の中にこの農林水産に関するものが欠落していたのではないかと考えている。まだ案の段階でなので、成案を得るときにはぜひとも加えていただいて、しっかりやらせていただきたい。

このライフ・イノベーションの中には特に記載は無いが、農林漁業によって派生する資源、あるいは農山漁村そのものが持つところの関係というのも、予防医学その他を含めて関係してくるものがあると思うので、ご検討頂きたい。

**【直嶋議員】**

今の議題2のグリーン・イノベーション及びライフ・イノベーションを推進することは結構と思う。産学官が結集して研究開発を進め、その成果を迅速に実用化、普及するためにも、実証、先ほど国際戦略の中で述べられた標準化、制度改革等にも重点を置くことが必要。

経産省としてもこの具体化の際に、そういう観点も含めて積極的に検討に加わってまいりたい。

**【武正外務副大臣】**

科学・技術は、国防、経済あるいは産業等ハードパワーの源泉であるのみならず、科学・技術に対する国際社会の関心、期待の高さにかんがみ、ソフトパワーの源泉と位置づけたいと思う。そうした認識の中で、外交に関しては、科学のための外交、日本の強みである科学・技術を外交のツールとして活用、科学に基づいた外交、日本の科学・技術の国際社会への発信など、

外務省でも科学・技術外交の推進に取り組んできている。現在、外務省及び大使館が中心となって、東京及び海外主要都市において関係府省、独法と連携して科学・技術外交ネットワークを構築している。今後とも科学・技術と外交の協働、科学コミュニティ（科学者）と外交コミュニティ（外交官）との協働を呼びかけたい。

【川端議員】

本日の議論を踏まえて、アクション・プランを作成してまいりたい。よろしくお願ひしたい。それでは、ここでプレスの入室をお願ひする。

（報道関係者入室）

【鳩山議長（内閣総理大臣）】

最先端研究開発支援プログラム、今日、皆様方にお認めを頂いた。予算が限られた中で充実したプログラムになったと思っているので、このプログラムの実施に向けて全力を尽くしていただきたい。大臣にもお願ひしたい。

また、アクション・プランという新しい予算の枠組み構築に向けて「科学・技術政策上の当面の重要課題」をお作りいただいた、これは大変画期的なことだと思っている。今までは各省の予算要求があってから総合科学技術会議が対応するというので、この順序が基本的には逆になっていた部分が、それを総合科学技術会議で各省で取り組むべきアクション・プランという枠組みをお決め頂いた。ライフ・イノベーションとグリーン・イノベーションを核にして、イノベーションというものをこれからいかに日本のある意味での成長戦略の柱に位置づけていくか、その中で科学・技術というものが大きな役割を演じるべきだということであろう。

それに基づいた予算をこれから編成していただくということだが、ぜひ皆様方のお力をいただいて、縦割の弊害が出てこないように注意して頂きたい、そのこともお願ひ申し上げたい。

また、白石議員から科学・技術の外交の重要性というお話を頂いた。アジア・サイエンス・テクノロジー・エリア構想、これをぜひ絵に書いた餅にせず、本物にしていかなければならない。

既にシンガポールなどはアジアの頭脳、アジアだけではなく世界の頭脳をシンガポールに集めるための算段を積極的に行っている。必ずしも日本として今までこういった意味での外交戦略があったかどうか、必ずしも十分ではなかったような気がしている。

その意味で、今回のアジア・サイエンス・テクノロジー・エリア構想を本物にして頂いて、日本が科学・技術の粋を集めた世界の中心になるんだという意気込みを実現をさせて頂きたい。

特に環境の分野などは熾烈な争いがもう既にあると思っております、日本独自の戦略をつくり上げていく必要があるかと思っている。

ぜひその意味でも総合科学技術会議のお力をいただいて、日本こそ、この科学・技術で今日まで成長を遂げてきた、これからも成長を遂げていく礎はここだ、その意気込みを信じていただいて発揮をしていただきたい、そのように思っている。

改めて、総合科学技術会議にお運びをいただいた議員の皆さん方に積極的に関わって頂いていることに感謝申し上げながら、これからもさらに積極的に関わってご活躍頂くことを心から祈念する。

(報道関係者退室)

【川端議員】

以上で会議を終了する。

なお、前回の議事録と本日の資料は公開させて頂く。

(以上)